

【第四胃左方変位への経皮的固定の実施】

○はじめに

先日、乾乳牛の第四胃左方変位（以下 LDA）を発症した症例に遭遇しました。LDA は分娩後に発症することがほとんどですが、妊娠末期に発症することも年に数例見かけます。妊娠末期に発症すると妊娠子宮が大きいため、普段弊社で行っている右臍部を切開する方法では四胃内のガスは抜けても四胃を固定することはなかなか難しいのです。そこで今回の症例には経皮的固定法である『びんつり法』を実施してきたのでご紹介いたします。

○第四胃左方変位の治療法

LDA の修復には数種類の手術的な方法と非手術法のローリング法があります。ローリング法は牛の右側を下にして寝かせ、仰向け⇒左下の順に転がして最後に起立させるものです。繁殖を中止した牛で『もう少し搾りたいんだけど何かできないか』なんて言うシチュエーションで試すことがありますが、治癒率が 20%程であることや 2~3 日で再発することが多いためあまり積極的に行うことはできません。手術的な方法には開腹を要するものと開腹を要さないものがあります。普段弊社で行っている右臍部切開法は開腹して、四胃のガスを抜いてから四胃周辺の組織もしくは四胃を腹壁に固定しています。今回の症例で行ったびんつり法は開腹を要さない方法で、安価かつ短時間で実施可能であることが可能です。ただその分デメリットもあり、左方変位のみへの適応であること、他の臓器を損傷する危険、四胃内に十分なガスが貯留していないと実施不可であることなどがあります。

○症例

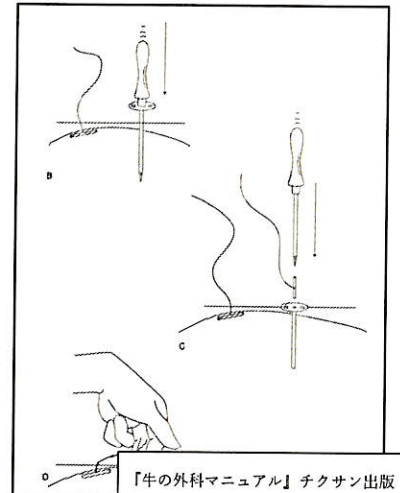
22 年 12 月 7 日初診、3 産目、DIM 305、1 月 10 日分娩予定、乾乳にして 1 カ月ほどで食欲不振との稟告でした。体温、呼吸等異常なく左臍部でピング音を聴取、LDA を発症していました。

○手術時の様子

2 日間の補液・生菌剤等の投与を行いました。改善なく第 3 病日に手術を実施しました。鎮静後、牛を仰向けで固定します。この状態に固定するのがなかなか労力と時間を要します。人手も 2 人以上必要でした。四胃が自然な位置で固定されるように少し右側が高くなるようにして、剃毛と消毒を行った後手術開始です。



手術手順はかなり簡便で、右腹底部の聴診でピング音が聴取できた領域に向けて套管針を挿入し、右の写真（トグルピン）を套管針の外套から押し込んで四胃内に固定します。2 か所にトグルピンを固定したら、それらを縫合して終了です。下右の写真は套管針を挿入するところ、下右の写真はトグルピンの固定が終了し、縫合するところです。牛の固定が 40 分ほど時間がかかりましたが、皮膚を切開してからピンを固定するまでは 15 分ほどで完了しました。聴診時に四胃の位置のイメージが大切ですが、それ以外の処置は実にスムーズに終わることができました。



『牛の外科マニュアル』チクサン出版



○まとめ

今回の症例は分娩が近いので、びんつり法の適用となりましたが、簡便・迅速・安価であることを考えると『廃用予定だけど乳量はまだまだだからもう少し搾りたい』等の理由があれば適用するのもいいのかもしれません。実際に右臍部切開法と比較して、5 分の 1 以下の価格でびんつり法は実施可能です。適用となる牛がいる場合は是非ご連絡いただければと思います。

津曲歩径



Total Herd Management Service